

Oracle Reports Developer and Oracle Reports Server for HP-UX

リリース・ノート

リリース 6*i*

2001 年 2 月

部品番号: J02469-01

このドキュメントには、リリースの時点で分かっている情報をすべて掲載しています。リリース後に明らかになった情報は、通常のカスタマーサポートから入手できます。

ORACLE®

Oracle と Oracle のロゴは Oracle Corporation の登録商標です。Oracle Reports Developer、Oracle Reports Server は、Oracle Corporation の商標です。記載されているその他の製品名および社名はその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれ該当する所有者の商標です。

目次

第 1 章 はじめに.....	7
この章の目的	7
サーバーのライセンス	7
第 2 章 概要	8
リリース 6i Patch2 とリリース 6i の関係	8
コンポーネントのバージョン番号	8
RSF コンポーネントの追加のバグ修正	8
日付の扱い	8
サポートするデータベース	8
使用可能なキャラクタ・セット	9
確認されている制限	9
データベース・オブジェクト名における非英数字	9
CD-ROM のマウント	9
このリリースと互換性のあるプリコンパイラ	10
UNIX 上の ORAINFONAV_DOCPATH 環境変数	10
Oracle File Packager	10
UNIX 上でのヘルプのインストールに必要な追加ステップ	10
TEMPLATES ディレクトリの欠落	10
Database Admin スクリプトにおける Oracle Translation Builder (OTB) の必要性 ..	10
WebDB リスナー (マシン 1 台に 1 つのみ)	11
Oracle Repository との統合	11
Oracle8i R8.1.6 Server に接続する際の問題	11
クイック・ツアー	11
Forms のアンインストールによるクイック・ツアーの使用不可	11
R6i へアップグレードする場合の注意点	12
ORACLE_HOME について	12
Oracle Reports Developer クライアント/サーバーコンポーネントの使用前の作業..	12
Reports Services の使用	13

第 3 章 Project Builder	14
初期パラメーターの修正	14
第 4 章 Form Builder	15
第 5 章 Report Builder	16
新しく追加されたビルトイン・プロシージャ	16
SRW.SET_XML_PROLOG	16
SRW.SET_XML_TAG	16
SRW.SET_XML_TAG_ATTR	17
REP-3000 エラー・メッセージ	17
HTML/XML 出力の国際化	18
キャラクタ・セットの識別	18
IANA キャラクタ・セットとそれに対応する Oracle キャラクタ・セット	19
サポートする PDF のバージョン	20
PDF ページの幅の制限	20
Advanced Networking Option	20
Microsoft IE4 と PDF で確認されている問題	20
Netscape と HTMLCSS 出力の問題	21
Reports と Graphics の統合	21
データ・モデルの制限	21
レイアウト・モデルの制限	21
Web ウィザード	22
バージョンの混合	22
V1-V2-V8 変換:PLSQL V2 の予約語の置換え	22
レポートの幅と高さのプロパティの場所	23
NULL チャート列の問題	23
クラスタ化とクラスタ構成	23
ドキュメントに記載されていないサーバー構成パラメータ	24
デバッグの中止	24
ランタイム・カスタマイズのための JRE の要件	24
PLSQL エディタ:DE_PREFS_TABSIZE によるタブ・サイズの設定	25
R6i より前に作成された HTML パラメータ・フォームへの行追加の必要性	25

フィールド・タグでの幅属性の使用	25
ランタイム・カスタマイズの特別な文字	26
レポートを DESTYPE=MAIL に送る場合の失敗	26
Internet Explorer の認証ウィンドウの反復	26
HP-UX 上の Reports Web CGI と Apache Web Server	26
UNIX 上の Reports サブレットからのエラー500.....	26
Oracle Reports Services エラー	27
チャート・ウィザード	27
Graphics 連携の制限.....	27
第 6 章 Graphics Builder.....	28
Unix 上での必要な環境変数の設定	28
第 7 章 Query Builder	29
第 8 章 Schema Builder	30
第 9 章 Translation Builder	31
第 10 章 Procedure Builder	32
第 11 章 Open Client Adapter.....	33
第 12 章 各国語サポート	34
すべての言語で確認されている問題	34
Report Builder のユーザー・インタフェースの不完全な翻訳	34
左から右のみの PDF 形式レポート	34
一部のウィザード・ボタンのテキストの未翻訳	34
ダブルバイト言語で確認されている問題	35
シングルバイト・フォントでの編集	35
日本語で確認されている問題	35
JA16EUC キャラクタ・セットの場合のモジュールの保存不可	35
Windows から UNIX への移行時の長さの制限	35
PL/SQL エディタの表示の問題	35
PL/SQL ライブラリ名におけるマルチバイト・キャラクタ・セットの使用不可	35
XML ファイルからのレポートにおける非 ASCII フォント名の使用不可	36
別の prefs.ora ファイルが必要となる場合	36

PL/SQL インタプリタのメッセージ・テキストにおける言語の混在.....	36
Unix 上にキュー・カードをインストールするための記憶領域の要件.....	36
異なるキャラクタ・セットで作成された OGD ファイルの実行.....	37
Oracle Reports Services エラーメッセージの表示	37
ファイルのオープン、保存時の不具合.....	37
アラビア語で確認されている問題.....	37
UNIX 上でチャートを表示するための制限.....	37
第 13 章 その他の問題点	39
ドキュメントに関する既知の問題点	39
Ä タグについて	39
デモ・テーブルを作成するスクリプト.....	39
レポート Web 公開ガイド	39
Oracle Reports Services サーバーでの X Window セッションの要件.....	39
第 14 章 Oracle Reports Services for HP-UX の日本語環境での設定	41
Forms アプリケーションでのフォントのマッピング.....	41
プリンタ構成ファイルの設定	41
使用するプリンタの PPD ファイルの選択と編集	41
uiprint.txt ファイルの更新	42
uifont.ali ファイルの更新	42
その他の日本語環境での設定に関するトラブルシューティング	43
第 15 章 Oracle Developer for HP-UX R6i Patch2 の適用.....	44
パッチの適用に関して	44
CD の内容	44
インストール方法	45
第 16 章 Oracle Reports Developer R6i Patch2 新機能	47
Oracle Reports セキュリティ	47
Oracle Portal	47
拡張集約操作および分析関数.....	47
ランキング・ファミリ	48
ウィンドウ集約ファミリ	48
レポート集約ファミリ	48

LAG および LEAD ファミリ	48
-------------------------	----

第 1 章 はじめに

この章の目的

この章では、Oracle Reports Developer および Oracle Reports Services リリース 6i と、ドキュメントに記載された機能との相違点を説明します。

サーバーのライセンス

Reports または Graphics を Web 環境に配置する場合は、Oracle Reports Services とそれに関連するライセンスが必要であることに注意してください。

Oracle Reports Services スケジューラを使用して Reports をスケジュールする場合にも同様です。

Reports Services は、開発目的用に Oracle Developer CD-ROM に含まれていますが、Reports Developer とは別にライセンスされます。

第 2 章 概要

リリース 6i Patch2 とリリース 6i の関係

リリース 6i Patch2 はリリース 6i とのパッチの互換性があります。

コンポーネントのバージョン番号

Oracle Reports Developer R6i の最初のリリースでは、ほとんどの主要コンポーネント (Report Builder など) に 6.0.8 というバージョン番号が付いています。また、ほとんどのサブコンポーネント (Toolkit など) に 6.0.5 というバージョン番号が付いています。これらのバージョン番号は、このリリースのサブコンポーネントに適切なバージョン番号です。

RSF コンポーネントの追加のバグ修正

この製品のこのリリースには、いくつかの RSF コンポーネントが含まれています。この RSF コンポーネントには、コンポーネントに対する正式な、番号付きパッチ内のコード修正とは別の修正が含まれます。(コンポーネントのこれらの修正またはパッチレベルは、"ワンオフ"と呼ばれることがあります。)

特に、このリリースには、バグ 1063571、1063104、1028960、1049171 および 1040536 の修正が含まれています。これらのバグ修正は、コンポーネント sqlnet、rdbms、nls および pls1 に影響します。

日付の扱い

Oracle Reports Developer での日付の扱いに関する重要な情報については、<http://www.oracle.co.jp/year2000/>を参照し、資料と White Paper へのリンクに従ってください。

サポートするデータベース

Oracle 7.3.4, 8.0.4, 8.0.5, 8.0.6, 8.1.5, 8.1.6 をサポートします。

使用可能なキャラクタ・セット

本リリースでサポートされる日本語キャラクタ・セットは JA16SJIS 及び JA16EUC です。ただし、クライアント/サーバーのランタイム・モジュールでは、JA16EUC の使用はサポートされません。

確認されている制限

データベース・オブジェクト名における非英数字

Oracle Reports Developer R6i は、ASCII 文字のうち英数字以外 (!や*など) を使用した表名および列名をサポートしません。

CD-ROM のマウント

CD-ROM をマウントするには次の手順を実行します。

1.ed などを使い、/etc/pfs_fstab に次のフォーマットで書き加えてください。

```
device_name mount_point filesystem_type translation_method
```

例：

```
/dev/dsk/c5t2d0 /SD-CDROM pfs-rrip xlat=unix 0 0
```

最初の項目は CD-ROM のデバイスファイルを、二つ目はマウントポイントを指定します。

2.root ユーザーとしてログインし、次のコマンドを実行します。

```
# nohup /usr/sbin/pfs_mountd &
```

```
# nohup /usr/sbin/pfsd &
```

3.CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットし、CD-ROM ドライブをマウントします。

```
# /usr/sbin/pfs_mount /SD_CDROM
```

4.ログアウトします。

```
# exit
```

5./SD_CDROM に移動し、CD-ROM 中のファイルが見えることを確認してください。

CD-ROM は読み込み専用のファイルシステムとしてマウントされます。

このリリースと互換性のあるプリコンパイラ

Oracle プリコンパイラを使用して Oracle Reports Developer R6i 用のユーザー・イグジットを開発する場合は、Oracle8 R8.0.6 に対応したバージョンのプリコンパイラを使用してください。

UNIX 上の ORAINFONAV_DOCPATH 環境変数

Unix プラットフォームでは、ORAINFONAV_DOCPATH 環境変数がオンライン・マニュアルの場所に設定されている必要があります。この環境変数のデフォルト値は、英語版のオンライン・マニュアルの場所（\$ORACLE_HOME/doc60/admin/manuals/US）に設定されています。日本語版のオンライン・マニュアルを参照する場合は、ORAINFODOC_DOCPATH 環境変数を \$ORACLE_HOME/doc60/admin/manuals/JA に設定する必要があります。

Oracle File Packager

Oracle File Packager（Reports Developer ドキュメントに記載されています）は、このリリースには含まれません。

UNIX 上でのヘルプのインストールに必要な追加ステップ

Reports Developer ヘルプ・システムを Unix システム上で正しく動作させるには、ORACLE_AUTOREG 変数を値 \$ORACLE_HOME/guicommon6/tk60/admin に設定する必要があります。（このヘルプ・システムには、ツールキット・オートメーション・レジストリである autoprefs.oar ファイルが必要です。UNIX 用のオンライン・ヘルプは英語です。）

TEMPLATES ディレクトリの欠落

Oracle Forms Developer および Oracle Reports Developer のマニュアル『アプリケーション作成ガイド』には、TEMPLATES ディレクトリについての記載があります。しかし、この製品には TEMPLATES ディレクトリは含まれていません。

Database Admin スクリプトにおける Oracle Translation Builder (OTB) の必要性

Database Admin Build スクリプトおよび Drop スクリプトは、Oracle Translation Builder SQL スクリプトを検出できない場合、失敗します。

この問題は、製品 CD から明示的に Oracle Translation Builder をインストールすることによって回避できます。

WebDB リスナー（マシン 1 台に 1 つのみ）

マシンには、WebDB リスナーを 1 つだけインストールすることができます。同一のマシン上の別の ORACLE_HOME にもう 1 つをインストールすると、最初のリスナーが機能しなくなる可能性があります。

Oracle Repository との統合

Oracle Reports Developer は、Oracle Repository と統合できます。

このリリース 6i は、ソース制御管理のためにリポジトリとの統合を可能にする d2sc プラグイン（PVCS、ClearCase およびその他の製品に提供されるプラグインと同様のもの）とともに出荷されます。ユーザーは、FMB、MMB などをチェックインおよびチェックアウトすることができ、リポジトリの依存性追跡やその他の高度な機能を使用できます。（詳細はリポジトリのドキュメントを参照してください。）

この初期機能により、今後の Reports Developer リリースにおける高度なレベルの統合の可能性が確立されます。

Oracle8i R8.1.6 Server に接続する際の問題

オペレーティング・システムの認証を使用して Oracle Reports Developer 製品から Oracle8i R8.1.6 データベースに接続できないことがあります。（この問題はサーバーのバグ 1139334 によるものです。）

クイック・ツアー

HP-UX では、環境変数 REPORTS60_DEV2K が FALSE に設定されていることを確認する必要があります。これが FALSE に設定されていない場合は、「ヘルプ」メニューまたは「Report Builder へようこそ」ダイアログから Reports Developer のクイック・ツアーを呼び出せません。

Forms のアンインストールによるクイック・ツアーの使用不可

Report Builder と Form Builder の両方をインストールし、その後 Form Builder をアンインストールすると、Report Builder とその他の Builder の「ヘルプ」メニューにクイック・ツアーが表示されなくなります。

R6iへアップグレードする場合の注意点

R6.0 から R6i へアップグレードする場合、R6i をインストールする前に、まず R6.0 をアンインストールする必要があります。R6.0 をアンインストールする前に、バグ 1263169 に対するパッチを R6.0 の環境に適用する必要があります。

このパッチは次のディレクトリにあります。

```
<CDROM>/PATCH/DEV2K_60/bug1263169
```

このディレクトリにはパッチの適用方法が記述されている README ファイルがあります。R6.0 からアップグレードする場合、R6i のインストールの前に次のコマンドを実行してください。

```
$ chmod -R 775 $ORACLE_HOME/network/jre11/lib
$ chmod -R 775 $ORACLE_HOME/forms60/java/Dev.x509
$ chmod -R 775 $ORACLE_HOME/forms60/java/oracle
```

アップグレードに関する追加情報は「Oracle Forms Server and Reports Server Installation Guide for HP-UX」または「Oracle Forms Developer and Reports Developer Installation Guide for HP-UX」を参照してください。

ORACLE_HOME について

Oracle9i Application Server のインストール直後、ORACLE_HOME はインストールで使用したディレクトリに設定されています。Reports 関連コンポーネントを使用するにあたっては、そのディレクトリの下の/6iserver というディレクトリを ORACLE_HOME として使用します。

Oracle Reports Developer クライアント/サーバーコンポーネントの使用前の作業

.rdf ファイルの作成、コンパイル作業など、Oracle Reports Developer のクライアント/サーバーコンポーネントを使用する場合、ログイン後下記の作業をしてください。

この作業によって、Reports Developer 関連の環境変数が設定されます。また Oracle9i Application Server 環境下では ORACLE_HOME が \$ORACLE_HOME/6iserver に切り替えられます。

(C シェルの場合)

1. `cd $ORACLE_HOME/6iserver`
2. `source reports60.csh`

※B シェルをお使いの場合は、reports60.sh を使用します。また、これらのシェルスクリプトはあらかじめお使いの OS や環境に合わせて修正しておく必要があります。

Reports Services の使用

Reports Services の起動と停止は、reports60_server、というシェルスクリプトで行うことができます。Reports Services の使用は、このシェルスクリプトだけで可能です。

このコマンドの実行により、Oracle9i Application Server 環境下では ORACLE_HOME が \$ORACLE_HOME/6iserver に切り替えられ、その他に Reports Services 関連の環境変数が設定されます。環境変数については、お使いの OS や環境に合わせてファイルの修正が必要な場合があるので注意が必要です。環境変数の意味については、インストレーション・ガイドを参照してください。

また、このシェルスクリプトでは、Oracle HTTP Server の起動と停止はできません。別途行ってください。

第 3 章 Project Builder

初期パラメーターの修正

問題: Report Builder モジュール、Report Builder ライブラリモジュールなど、Report Compiler によってビルドされるよう設定されているモジュールのビルド時に、「FRM-90927 コマンド・ラインのパラメータが不明です。」エラーが出力されます。

対処: グローバル・レジストリノードで、各モジュールのプロパティパレットを開き、アクションノードの「・・・からビルド」に入力されている初期パラメーターから、"Minimize=YES" を削除してください。

第 4 章 Form Builder

(Forms Developer 用の別のリリースノートを参照してください。)

第 5 章 Report Builder

新しく追加されたビルトイン・プロシージャ

このリリースには次の 3 つのビルトイン・プロシージャが新しく追加されています。

- SRW.SET_XML_PROLOG
- SRW.SET_XML_TAG
- SRW.SET_XML_TAG_ATTR

これらのビルトイン・プロシージャによって、PL/SQL の XML 出力プロパティを設定できます。各ビルトイン・プロシージャについて、次の項で説明します。

SRW.SET_XML_PROLOG

構文:

```
SRW.SET_XML_PROLOG(type, 'string');
```

このプロシージャは、現行のレポートの XML Prolog を置き換えます。必要な XML Prolog (<?xml version="1.0"?>) を指定する必要があります。また、エンコードやその他のコメントを指定できます。

type: SRW.FILE_ESCAPE または SRW.TEXT_ESCAPE。

これは、string パラメータがファイル名であるか、挿入されるテキストであるかを示します。

string: これは、ファイル名または使用されるテキストです。どちらであるかは、type パラメータに何を指定したかによって異なります。

参照: XML Prolog 型プロパティおよび XML Prolog 値プロパティ。

制限: SRW.SET_XML_PROLOG は、レポートがフォーマットを開始する前に起動するトリガー（例、Before Report トリガー）内に設定する必要があります。

このビルトイン・プロシージャの使用例は、このリリース・ノートの「キャラクタ・セットの変換」に記載されています。

SRW.SET_XML_TAG

構文:

```
SRW.SET_XML_TAG(type, 'name', 'string');
```


このプロシージャは、現行のレポート、グループ、外部グループ、または列の XML タグを置き換えます。

type: SRW.REPORT_XML、SRW.GROUP_XML、SRW.GROUP_OUTER_XML または SRW.COLUMN_XML。これは、オブジェクトがレポート・オブジェクト、グループ・オブジェクト、列オブジェクトのいずれであるかを示します。また、グループ・オブジェクトである場合、グループの XML タグに対するものであるか、外部グループの XML タグに対するものであるかを示します。

name: 設定される、レポート・オブジェクトの XML タグです。

string: 使用する XML テキストです。

参照: XML タグ・プロパティおよび XML 外部タグ・プロパティ。

制限: SRW.SET_XML_TAG は、レポートがフォーマットを開始する前に起動するトリガー（例、Before Report トリガー）内に設定する必要があります。

例:

```
function BeforeReport return boolean is
begin
    SRW.SET_XML_TAG(SRW.REPORT_XML, 'DEPT', 'TOOLS_DIVISION');
    SRW.SET_XML_TAG(SRW.GROUP_OUTER_XML, 'G_DEPTNO',
        'DEPARTMENT_LISTING');
    SRW.SET_XML_TAG(SRW.GROUP_XML, 'G_DEPTNO', 'DEPARTMENT');
    SRW.SET_XML_TAG_ATTR(SRW.GROUP_XML, 'G_DEPTNO',
        'NUMBER="&DEPTNO"');
    SRW.SET_XML_TAG(SRW.COLUMN_XML, 'DNAME', 'DEPARTMENT_NAME');

    return (TRUE);
end;
```

SRW.SET_XML_TAG_ATTR

構文:

```
SRW.SET_XML_TAG_ATTR(type, 'name', 'attribute');
```

このプロシージャは、SRW.SET_XML_TAG と似ていますが、XML タグではなく属性値を提供します。上記の例を参照してください。

REP-3000 エラー・メッセージ

rwrun60 をバッチ・モードで実行すると、出力の生成中にエラー REP-3000 が発生します。これは、Windows で rdf ファイルが作成される場合に起こります。

出力は正しく生成されます。このメッセージは無視してください。

HTML/XML 出力の国際化

キャラクタ・セットの識別

クライアント（ブラウザ）、中間層（Reports Services）、データベースのすべてが異なるキャラクタ・セットで実行される 3 層アーキテクチャでは、データが正しく変換され、表示されることを確認することが重要です。Net8 では、データベース—Reports Services 間の変換を扱います。ただし、レポート出力は Reports Services が実行されたキャラクタ・セットで生成されるので、ブラウザに HTML または XML がどのキャラクタ・セットで生成されたかを認識させることが重要です。

HTML の場合、次の META タグ（通常、<HEAD>タグと</HEAD>タグの間に置きます）でこれを行うことができます。

```
<META CONTENT="text/html; charset=windows-1251" HTTP-EQUIV=Content-Type >
```

XML の場合は、次の Prolog（最初の行）でこれを行うことができます。

```
<?xml version="1.0" encoding="windows-1251"?>
```

上記の例は、windows-1251 キャラクタ・セットに切り替える場合のものです。

注意：これらの設定は、Netscape および Microsoft IE に有効です。他のブラウザには、キャラクタ・セットの動的な切替をサポートしないものもあります（例、Opera）。詳細は、<http://www.w3.org/International/>で、この件に関する W3C の資料を参照してください。

レポートの開発者は、NLS_LANG 環境変数の値を取得することによって、レポートが生成されるキャラクタ・セットを調べることができます。これは、LANGUAGE_TERRITORY.CHACTERSET という形式です。（たとえば、JAPANESE_JAPAN.JA16EUC）最後の引数がキャラクタ・セットです。

Oracle キャラクタ・セットは、国際組織（IANA など）が標準を制定する前に定義されたものなので、Oracle バージョンと標準バージョンでは、キャラクタ・セットの名前が少し異なることがあります。

ブラウザは、標準名のみを認識します。したがって、Oracle キャラクタ・セット名をそれに対応する標準名に変更する必要があります。次のサブセクションに、キャラクタ・セットの対応関係を示します。

IANA キャラクタ・セットとそれに対応する Oracle キャラクタ・セット

これは、一般的なキャラクタ・セットとそれに対応する Oracle キャラクタ・セットのリストですが、決定版ではありません。

IANA キャラクタ・セット	Oracle キャラクタ・セット
US-ASCII	US7ASCII
ISO-8859-1	WE8ISO8859P1
ISO-8859-2	EE8ISO8859P2
ISO-8859-3	SE8ISO8859P3
ISO-8859-4	NEE8ISO8859P4
ISO-8859-5	CL8ISO8859P5
ISO-8859-6	AR8ISO8859P6
ISO-8859-7	EL8ISO8859P7
ISO-8859-8	IW8ISO8859P8
ISO-8859-9	WE8ISO8859P9
windows-1250	EE8MSWIN1250
windows-1251	CL8MSWIN1251
windows-1253	EL8MSWIN1253
windows-1254	TR8MSWIN1254
windows-1255	IW8MSWIN1255
windows-1256	AR8MSWIN1256
windows-1257	BLT8MSWIN1257
windows-1258	VN8MSWIN1258
EUC-JP	JA16EUC
Shift_JIS	JA16SJIS
EUC-KR	KO16KSC5601
GB2312	ZHS16CGB231280
Big5	ZHT16BIG5

IANA キャラクタ・セット	Oracle キャラクタ・セット
UTF-8	UTF8

サポートする PDF のバージョン

Reports は、PDF 1.1 をサポートしています。

レポートに英語ではないキャラクタ・セットの言語（通常マルチバイト）または Unicode キャラクタ・セットが含まれている場合、Adobe Acrobat Reader では、Report Builder によって生成された PDF レポート・ファイルを読み取ることができません。ただし、Reports からポスト・スクリプトを生成し（Reports がポスト・スクリプト出力で正しいフォントを参照していることを確認します）、結果として得られたポスト・スクリプト・ファイルを、「全フォントを埋め込む」オプションを有効にして Adobe の Distiller プログラムに渡せます。これにより、サブセット・フォントが埋め込まれた PDF ファイルが作成されます。その後、Acrobat を使用してその埋込みフォントを持つポスト・スクリプトを生成します。

PDF ページの幅の制限

Adobe Acrobat Reader には表示制限があります。Acrobat Reader が扱うことのできる最大ページ幅は、45 インチです。レポートのページ幅が 45 インチよりも大きく設定され、PDF 形式で生成される場合、Acrobat Reader には何も表示されません。

Advanced Networking Option

Reports Multi-tier Server は、現在、Advanced Network Option をサポートしていません。

Microsoft IE4 と PDF で確認されている問題

Microsoft Internet Explorer 4 から Reports Services を介して PDF 形式のレポートを実行すると、レポート出力がブラウザに表示されないことがあります（ウィンドウの左上端に小さなアイコンが表示されます）。Microsoft IE 4 の不具合が原因で、PDF ファイルがリダイレクト時に空白ページとして表示されます。

これは、IE 5.01 で修正されています。

Netscape と HTMLCSS 出力の問題

Netscape ウィンドウのサイズを変更すると、ページが変形し、そのページの再ロードが必要となることがあります。8 ポイントより小さいフォントは、太字の属性を失います。

「Web プレビュー」オプションを使用して、ブックマークを持つ Reports を表示する場合は、ブックマーク・フレームがリフレッシュされません。レポートを表示するたびに、新しいブックマーク・フレームが表示されます。ブラウザを終了してから再起動し、不適切なフレームを削除する必要があります。

Reports と Graphics の統合

Graphics 図表をレポートに統合する場合は、データベースへの接続時に、接続文字列を指定する必要があります。

LOCAL 環境変数またはレジストリ・エントリが定義済である場合でも、接続文字列を指定する必要があります。これを行わない場合、統合できません。

データ・モデルの制限

問題: 「ツール」→「作業環境」メニューより、作業環境ダイアログの「一般」タブで「オープン時にレポート・エディタを表示しない」がオンであるかオフであるかに関わらず、モジュールのオープン時に、最初にレポート・エディタがオープンしません。

対処: 「ツール」→「レポート・エディタ」メニューを使用します。

レイアウト・モデルの制限

問題: チャート・ハイパーリンクでは、最初から 10 個目以降のハイパーリンクの値が機能しないことがあります。

対処: 現時点ではありません。

問題: ボイラープレート・テキストの値をシングルバイトからマルチバイトに変更すると、GPF（一般保護違反）が発生します。

対処: ボイラープレート・テキストを変更する前に、フォントを'Arial'から'Gothic BBB'に変更します。

問題: マルチバイトの場合、ライブ・プレビューアにおいて「すべて選択」を発行すると、GPF（一般保護違反）が発生します。

- 対処: オブジェクト・ナビゲータまたはレイアウト・エディタを使用してオブジェクトを「すべて選択」します。
- 問題: ヘッダー・セクションまたはトレーラ・セクションでレポート・ウィザードを使用すると、メインのレイアウト・セクションが無効になります。
- 対処: 「追加デフォルト・レイアウト」ツールを使用してヘッダー・セクションまたはトレーラ・セクションのレイアウトを作成するか、これらのセクションがデフォルトになっている場合はレポート・ウィザードを使用してデータ・モデルを変更するのを避けます。
- 問題: プロパティ・パレットで「検索」機能を使用する場合、「名前」プロパティおよび「コメント」プロパティを持たないレイアウト・オブジェクトがあるために Reports がハングします。
- 対処: このパレットで「検索」を使用するのを避け、オブジェクト・ナビゲータを使用してオブジェクトの名前を変更します。
- 問題: Web 用のレポートを開発しているときに、出力イメージを確認するために何度も Report Builder から Web ブラウザに切り替えると、Report Builder がハングすることがあります。
- 対処: 現時点ではありません。

Web ウィザード

- 問題: Web 用のレポートを開発しているときに Web ウィザードでテストを行うと、レポートがハングすることがあります。
- 対処: 現時点ではありません。

バージョンの混合

- 異なるリリースの実行可能ファイルを混合することはできません。
- たとえば、リリース 6i の実行可能 CLI コマンド (rwcli60) を使用してリリース 1.6.1 の Report Server にアクセスすることはできません。

V1-V2-V8 変換:PLSQL V2 の予約語の置換え

PL/SQL バージョン 1 をバージョン 2 以上に変換すると、新しい予約語が既存の表名または列名と重複するという問題が生じることがあります。たとえば、VARIANCE は PL/SQL バージョン 2 以上の新しい予約語です。これらの予約語の中には、大文字のキーワードを二重引用符で囲むことによって表名または列名を参照するための識別子として使用できるも

の也有あります。一般的には、リリース 6i のドキュメントの V1-V2-V8 コンバータに関する記述の通り、新しい予約語のすべてのインスタンスを新しい一意な識別子に置き換えることをお薦めします。

レポートの幅と高さのプロパティの場所

リリース 6 より前のバージョンでは、レポートの幅および高さがレポート・レベルのプロパティ・パレットに設定されていました。Oracle Reports R6.0 および 6i では、ユーザーが、レポートのセクションごとに異なったディメンションを持つことができます。したがって、幅および高さのプロパティは、レポート・レベルのプロパティ・パレットからセクション・レベルのプロパティ・パレットに移動されました。

NULL チャート列の問題

問題: チャート・ウィザードを使用する場合にチャート列として使用されているフィールド内のデータが NULL であると、Reports が正しく機能しないことがあります。

対処: NVL 関数を使用します。以下に例を示します。

```
SELECT ALL nvl (TRAVEL.NODENAME, 'null') NODENAME,
              TRAVEL.DESCRPTION, TRAVEL."VALUE",
              'Profiles of' || decode (TRAVEL.COST, 'I', 'Inexpensive',
              'E', 'Expensive', NULL) || '
Travellers' cost_category
FROM TRAVEL
```

クラスタ化とクラスタ構成

クラスタ化により、複数の Reports Services 上でレポートを実行できます。クラスタ構成は、マスター・サーバーに対するスレーブ・サーバーの構成です。マスター・サーバーは、使用可能なスレーブ・サーバーを識別し、必要に応じてそのエンジンを起動できます。多くのサーバーをマスター・サーバーに対するスレーブとして設定できます。

構文:

マスター・サーバー構成ファイルでは、次のようになります。

```
clusterconfig="(server=server_name minengine=0 maxengine=1
initengine=1
cachedir=/cache) "
```

注意: パラメータ値全体を二重引用符で囲む必要があります。スレーブ・サーバーの各定義は、カッコで囲む必要があります。

クラスタ構成パラメータに関連する値の詳細は、『Oracle Reports Developer パブリッシング・レポート リリース 6i』を参照してください。

ドキュメントに記載されていないサーバー構成パラメータ

Failnotefile

Failnotefile は、実行に失敗したジョブの通知メッセージ・テンプレートのパスおよびファイル名です。

Succnotefile

Succnotefile は、正常に実行されたジョブの通知メッセージ・テンプレートのパスおよびファイル名です。

デバッグの中止

REPORTS60_CGINODIAG を yes（または他の任意の値）に設定すると、R60CGI からのデバッグ/診断出力がすべて無効になります（たとえば、http://your_webserver/r60cgi/help?が機能しません）。

ランタイム・カスタマイズのための JRE の要件

Reports Developer のランタイム・カスタマイズには JRE が必要です。

ランタイム・カスタマイズ機能を有効にするには、次の環境変数が必要な jar ファイルを指すように設定する必要があります。

REPORTS60_CLASSPATH は、ランタイム・カスタマイズ機能に必要な jar ファイル、rt.jar、myreports60.jar および xmlparser.jar を指す必要があります。

Windows の場合は、レジストリで REPORTS60_CLASSPATH を設定できます。

UNIX の場合は、シェル・スクリプトで、またはコマンド行から REPORTS60_CLASSPATH を設定できます。以下に例（C シェル構文）を示します。

```
setenv REPORTS60_CLASSPATH
    $ORACLE_HOME/network/jre11/lib/rt.jar:
    $ORACLE_HOME/reports60/java/myreports60.jar:
    $ORACLE_HOME/reports60/java/xmlparser.jar
```

REPORTS60_JNI_LIB には、JVM ネイティブ・ライブラリ（Win32 上では javai.dll、UNIX 上では libjava.sl）の場所が含まれています。他の JRE ランタイム・ライブラリ（UNIX 上の libzip.sl など）も同じディレクトリ内に存在する必要があります。Windows の場合は、レジ

ストリで `REPORTS60_JNI_LIB` を設定できます。HP-UX の場合は、シェル・スクリプトで、またはコマンド行から `REPORTS60_JNI_LIB` を設定できます。以下に例を示します。

```
setenv REPORTS60_JNI_LIB
$ORACLE_HOME/network/jre11/lib/PA_RISC/native_threads/libjava.sl
```

PLSQL エディタ:DE_PREFS_TABSIZE によるタブ・サイズの設定

PL/SQL エディタのタブ・サイズは、`DE_PREFS_TABSIZE` レジストリ・エントリを使用して設定できます。`DE_PREFS_TABSIZE` の値を、PL/SQL エディタのタブ幅（文字数で表します）に設定します。デフォルトでは、タブ・サイズは 2 に設定されています。

R6i より前に作成された HTML パラメータ・フォームへの行追加の必要性

パラメータ・フォームの妥当性チェックを使用する、R6i より前のレポートでは（つまり、パラメータ・フォームがエラーをレポートする場合）、問題が発生することがあります。

この問題を回避するには、手動で、次に示す HTML の行を `BEFORE FORM VALUE` パラメータ内、または `srw.set_before_form_html` ビルトインを使用してこのプロパティの値を設定するコード内に追加します。

```
<font color=red><!--error--></font>
```

この行を次に示す既存の行の間に追加します。

```
<input name="hidden_run_parameters" type=hidden value="_hidden_">
<center>
```

したがって、拡張されたコードは次のようになります。

```
<input name="hidden_run_parameters" type=hidden value="_hidden_">
<font color=red><!--error--></font>
<center>
```

フィールド・タグでの幅属性の使用

ランタイム・カスタマイズには、「field」タグに、幅を表すオプションの属性が追加されました。

構文: `[width='size_in_characters']`

`width` は、フィールドの長さを文字数で表したものです。

この属性は、新しいフィールドのみに適用されます。既存のフィールドでは、この属性が無視され、そのフィールドの元の幅が使用されます。

ランタイム・カスタマイズの特別な文字

ランタイム・カスタマイズ用の XML では、ASCII 番号が 127 より大きな文字を HTML ASCII にエンコードする必要があります。たとえば、英国のポンド記号（ASCII 文字 163）を XML で使用する場合は、その記号を `£` としてエンコードします。

さらに、そのポンド記号を書式マスク属性に入れる場合は、その記号を囲む二重引用符をエンコードする必要があります。以下に例を示します。

```
formatMask="&#034;&#163;&#034;NNNGNNNGNNNGNN0D99"
```

プログラムで文字の ASCII 番号を検索するには、ASCII 関数（例、`select ascii('') from dual`）を使用できます。

レポートを DESTYPE=MAIL に送る場合の失敗

問題： Report Builder または Reports CGI から `desname=<有効な email アドレス>` の `destype=mail` でレポートを送信すると、メッセージ REP-4204 を受け取り、失敗します。

対処： Netscape Communicator をリリース 4.7 にアップグレードします。個人用アドレス帳にメール受信者のアドレスを追加します。

Internet Explorer の認証ウィンドウの反復

問題： Microsoft Internet Explorer を使用して Reports CGI またはカートリッジを実行し、データベース・サーバーまたは保護サーバーに対してユーザーを認証させる場合、何度も認証ウィンドウが表示されます。

対処： IE のオプション「保存しているページの新しいバージョンの確認」の「ページを表示するごとに確認する」を選択します。このオプションは、「ツール」→「インターネットオプション」、「全般」タブの「設定」にあります。

HP-UX 上の Reports Web CGI と Apache Web Server

HP-UX 上で Reports Web CGI を実行する場合、使用するシェル・スクリプトに ORACLE_HOME 環境変数と SHLIB_PATH 環境変数の両方の値を設定する必要があります。これらの環境変数の詳細はオンライン・ヘルプを参照してください。

UNIX 上の Reports サーブレットからのエラー-500

問題： UNIX 上で Reports servlet を起動すると、次のエラー・メッセージが表示されます。

```
エラー:500
サーブレット内部エラー: java.lang.UnsatisfiedLinkError:
    rwexec
```

この問題は、サーブレットが、リンクする必要のあるライブラリを検出できないために発生します。

対処: UNIX プロンプトから次の操作を行います。

```
cp $ORACLE_HOME/bin/rwsvl60.sl
   $ORACLE_HOME/lib/librwsvl60.sl
```

この操作により、ライブラリが正しい場所にコピーされ、ライブラリの名前が変更されます。

(この問題は、将来のリリースで解決される予定です。)

Oracle Reports Services エラー

TNS_ADMIN 環境変数またはレジストリ・キーを別の値に設定した場合に、Oracle Reports Services はエラー186 または REP-0186 で失敗する可能性があります。そのような場合は、Oracle Reports Services を次のように始動してください。

```
prompt> setenv TNS_ADMIN <IAS_HOME>/6iserver/network/admin
```

```
prompt> <IAS_HOME>/6iserver/reports60_server start
```

この場合の、<IAS_HOME>は、Oracle9i Application Server をインストールしたディレクトリに置換してください。これにより、Oracle Reports Services は、<IAS_HOME>/6iserver/network/admin にある tnsnames.ora ファイルを使用するようになります。

チャート・ウィザード

このリリースでは、チャート・ウィザードの使用はサポートされません。

Graphics 連携の制限

クライアント/サーバーでモジュールを実行する場合、Graphics モジュールとの連携は機能しません。

第 6 章 Graphics Builder

Unix 上での必要な環境変数の設定

Graphics 統合を Unix システム上で機能させるためには、次の環境変数を設定する必要があります。

```
setenv TK_PRINTER <printer_name>
setenv TK_PRINT_STATUS echo
```

第 7 章 Query Builder

既知の問題はありません。

第 8 章 Schema Builder

既知の問題はありません。

第 9 章 Translation Builder

既知の問題はありません。

第 10 章 Procedure Builder

既知の問題はありません。

第 11 章 Open Client Adapter

既知の問題はありません。

第 12 章 各国語サポート

すべての言語で確認されている問題

Report Builder のユーザー・インタフェースの不完全な翻訳

一部の言語では Report Builder のユーザー・インタフェースの翻訳が完全ではありません。
(日本語では、翻訳されたユーザー・インタフェースは提供されています)

それら翻訳が完全でない言語の場合は、英語のインタフェースを使用してください。

そのためには、次の設定をします。

```
DEVELOPER_NLS_LANG=AMERICAN_AMERICA.<charset>  
USER_NLS_LANG=< Language>_<Territory>.<charset>
```

この設定は、Builder を実行しているワークステーションで行います。

< Language>にレポートを実行する言語を代入します。

< Territory>にレポートを実行する地域を代入します。

< charset>に使用する Oracle キャラクタ・セットを代入します。

左から右のみの PDF 形式レポート

問題: PDF 形式で生成されたレポートは、方向設定に関係なく、必ず左から右に表示されます。

対処: 可能な場合は、非 PDF 形式を選択します。

一部のウィザード・ボタンのテキストの未翻訳

Unix システム上のウィザードでは、ボタンのテキストが英語で表示される場合があります。

ダブルバイト言語で確認されている問題

シングルバイト・フォントでの編集

問題: Builder のダブルバイト言語実装では、シングルバイトのフォント（例、Arial）を使用して編集すると、文字化けが起こります。これは、編集フィールドで発生します。

対処: シングルバイト・フォントを使用せずに、ローマン・スクリプトを表示するダブルバイト・フォントを使用します。

日本語で確認されている問題

JA16EUC キャラクタ・セットの場合のモジュールの保存不可

問題: キャラクタ・セットが JA16EUC の場合、Oracle データベースにモジュールを保存できません。

対処: 代わりに、JA16SJIS キャラクタ・セットを使用します。

Windows から UNIX への移行時の長さの制限

問題: 30 バイトを超える長さの（半角カタカナを使用した）名前を持つオブジェクトを Windows から UNIX に移行できません。

対処: 現時点ではありません。

PL/SQL エディタの表示の問題

問題: 1 行に入力された文字が、複数行に一部重複して表示されます。

対処: 現時点ではありません。

PL/SQL ライブラリ名におけるマルチバイト・キャラクタ・セットの使用不可

問題: マルチバイト・キャラクタ・セットを使用して PL/SQL ライブラリ名を作成できません。

対処: 現時点ではありません。

XML ファイルからのレポートにおける非 ASCII フォント名の使用不可

問題: NLS_LANG が American_America.UTF8 に設定されている場合でも、埋込みフォント名は Shift-JIS エンコードです。この構成では、html の他の文字（ボイラープレートなど）は、UTF8 エンコードです。つまり、出力に Shift-JIS エンコードと UTF-8 エンコードの両方が含まれます。したがって、このファイルをブラウザから処理することはできません。

対処: ASCII バージョンのフォント名を使用します。たとえば、（Windows 環境などでは）MS P ゴシックではなく MS UI Gothic を使用します。

別の prefs.ora ファイルが必要となる場合

問題: 日本語版のインストールを選択した場合、JA16EUC エンコードの日本語用の prefs.ora がインストールされます。これにより、次のような他の NLS_LANG 設定でアプリケーションを開発する場合にいくつかの問題が発生します。

- American_America.JA16EUC ^(a)
または
- Japanese_Japan.UTF8 ^(b)

対処:

- a. アメリカ英語用の prefs.ora ファイルが必要です。これらのファイルをインストール CD からコピーする必要があります。
- b. UTF8 エンコードの prefs.ora ファイルが必要です。prefs.ora ファイルを JA16SJIS エンコードから UTF8 エンコードに変換します。

PL/SQL インタプリタのメッセージ・テキストにおける言語の混在

Procedure Builder を実行する場合、PL/SQL インタプリタからのエラー・メッセージ（例、ORA-04098）が英語で表示される場合があります。

Unix 上にキュー・カードをインストールするための記憶領域の要件

Unix システム上にキュー・カードをインストールする場合、日本語 tar ファイルと US tar ファイルの両方がインストールされます。これらの tar ファイルに必要な記憶領域の合計は、約 275Mb です。

キュー・カードはオプションです。記憶領域が小さい場合は、キュー・カードをインストールしなくても構いません。

異なるキャラクタ・セットで作成された OGD ファイルの実行

問題：実行環境と異なるキャラクタ・セットで作成されたチャートを、Graphics または、Forms モジュールから実行できません（例：Windows(SJIS)環境で作成した OGD ファイルを、UNIX の EUC 環境で実行）。異なるキャラクタ・セットで作成した OGD ファイルを実行しようとするとき下記のようなエラーが発生し、チャートが表示されない、間違った値でチャートが表示される、また Web 環境では、Reports Services の応答が返ってこない場合があります。

「OG-04001 チャート・テンプレートにフィールド・テンプレートがありません」

「OG-04002 問い合わせ列にデータが見つかりません」

対処：実行環境と同じとキャラクタ・セット環境で作成した OGD ファイルを使用してください。

Oracle Reports Services エラーメッセージの表示

Oracle Reports Services アプリケーション実行時に HTML 形式で表示されるエラーメッセージの日本語文字列が正しく表示されません。

ファイルのオープン、保存時の不具合

問題：ファイルのオープン/保存ダイアログボックスの文字が正しく表示されない場合があります。

対処：ダイアログ下部に並んでいる 3 つのボタンのうち、左側のボタンを「OK」、中央のボタンを「更新」、右側のボタンを「Cancel」としてご使用ください。

アラビア語で確認されている問題

UNIX 上でチャートを表示するための制限

UNIX バージョンの Oracle Reports Developer R6i を使用してチャートを作成する場合は、UNIX オペレーティング・システムでは、Windows NT に比べてフォントとロケールのサポートが少ないことに注意する必要があります。特に、UNIX には正式なアラビア語ロケールがありません。Oracle Reports Developer R6i for HP-UX では、Unicode ロケールに対するサポートが非常に限られています。

したがって、アラビア語または Unicode を使用する場合、UNIX 上で作成されたチャートにはテキストが正しく表示されません。これは、UNIX ベースのサーバーにアクセスする Web クライアント上に表示されるチャートでも起こります。これは、チャートがサーバー上で

ビットマップ・グラフィックにされるために起こります。サーバーが **UNIX** ベースである場合、アラビア語および **Unicode** のフォントは使用できません。フォーム、レポート、グラフィックの他のテキストは、通常、直接クライアントに送られ、クライアントのロケールで処理されます。

対処方法として、**Unicode** ではなく西ヨーロッパのチャート・テキスト・フォントを選択することをお勧めします。

第 13 章 その他の問題点

ドキュメントに関する既知の問題点

Ä タグについて

ブラウザによっては特定の文字が正常に表示されないことがあります。HTML のドキュメントで Ä タグを Netscape で正常に表示できません。

デモ・テーブルを作成するスクリプト

マニュアル『J00918-01 Oracle Reports Developer レポート作成ガイド リリース 6i』の 1 章「1.3 起動前のデータベース・アクセス権の取得」に下記の記述があります。

このマニュアルで説明するレポートを作成するためには、Oracle Reports Developer デモ・テーブルにアクセス可能であることが必要です。デモ用の SQL スクリプトをインストールしてください。このスクリプトは、データベースにデモ・テーブルをインストールするために使用します。

デモ・テーブルを作成するスクリプトは、Oracle Technology Network Japan

<http://otn.oracle.co.jp/>

からダウンロード可能です。

レポート Web 公開ガイド

CD から \$ORACLE_HOME/doc60/admin/manuals/JA/od_pubrep60 ディレクトリにインストールされるドキュメントは古い内容です。ドキュメント CD に含まれる「J02835-01 Oracle9i Application Server Oracle Reports Services レポート Web 公開ガイド リリース 1.0.2」を参照してください。

Oracle Reports Services サーバーでの X Window セッションの要件

ビットマップ・レポートを実行するには、Oracle Reports Services サーバーによって起動されたエンジンに適切なウィンドウ・システムへのアクセス権限が必要です。これは Windows プラットフォームでは問題ありませんが、Windows 以外のプラットフォームでは、有効な X Window セッションを使用できなければならないことを意味します。これに該当するかどうかを確かめるには、Oracle Reports Services サーバーが、有効な DISPLAY 環境変数のあるセ

セッションから起動されていることを確認してください。該当しない場合は、REP-3000 および REP-1800 エラーになります。

第 14 章 Oracle Reports Servises for HP-UX の日本語環境での設定

Forms アプリケーションでのフォントのマッピング

他のプラットフォーム上で作成されたモジュールを Form Builder で読み込む際は、`<ORACLE_HOME>/guicommon6/tk60/admin/uifont.ali` にフォントのマッピングに関する有効なエントリを記述してください。uifont.ali の設定についての詳細はインストレーション・ガイド、「uifont.ali ファイルの編集」の節を参照してください。

プリンタ構成ファイルの設定

プリンタ構成ファイルを設定し、システムがプリンタ出力できるように以下の作業を行います。

- 使用するプリンタの PPD ファイルの選択と編集
- uiprint.txt ファイルの更新
- uifont.ali ファイルの更新

使用するプリンタの PPD ファイルの選択と編集

この作業では使用するプリンタに対応する PostScript Printer Definition (PPD) ファイルを選択する手順を示します。UNIX では、特定の PostScript プリンタで利用可能なフォントをプリンタから直接取得できないため、Oracle Toolkit では PPD ファイルを使用して利用可能なフォントを判断します。

各 PPD ファイルは、特定のプリンタの用紙サイズ、利用可能フォント、及びデフォルト解像度を規定します。このファイル内に PostScript フォントがリストされている場合、対応する Adobe Font Metrics (AFM) ファイルが `<ORACLE_HOME>/guicommon6/tk60/admin/AFM` ディレクトリ内にある必要があります。このファイルは、Toolkit でのフォント・メトリックスの計算に使用されます。

AFM ファイルは、Type1 でのフォント・プログラム用のフォント・メトリック情報を指定します。各 AFM ファイル内には 1 つのフォントに関して、スタイル、線の太さ、幅、キャラクタ・セットなどの属性、固定ピッチかプロポーショナルか、および各キャラクタのサイズ情報がリストされています。

Oracle では、一般的なプリンタおよびフォント用の PPD ファイルと AFM ファイルをいくつか提供しています。使用するプリンタに対応するファイルが見つからない場合、デフォルトのプリンタ定義ファイル `default.ppd` を使用することも可能です。また、PPD 及び AFM ファイルをプリンタのベンダーまたは Adobe システムズ株式会社から入手できます。

- PPD ファイル内にリストされているフォントを確認します。
- 必要なフォントがすべて `$ORACLE_HOME/guicommon6/tk60/admin/AFM` に存在するか確認します。

使用するプリンタに必要なフォントを確認するには、プリンタのマニュアルを参照してください。

プリンタにフォントを追加する場合は、そのフォントに関するエントリをプリンタ PPD ファイルに追加することが必要です。（PPD ファイルを編集する際は、編集前のファイルをオリジナルファイルとして保存してください）

uiprint.txt ファイルの更新

使用するプリンタを `<ORACLE_HOME>/guicommon6/tk60/admin/uiprint.txt` に登録してください。ここで、プリンタ名、タイプ、バージョンおよび PPD ファイルの指定などを記述します。プリンタ名、タイプ、PPD ファイルの指定は必ず記述してください。

uifont.ali ファイルの更新

フォントのマッピングに関する記述を

`<ORACLE_HOME>/guicommon6/tk60/admin/uifont.ali` で行ってください。プリンタで使用するフォントに変換する記述を、このファイル内でプリンタのタイプ別にリストすることも可能です。記述方法は以下の通りです。

"モジュールで使用するフォント名" = "プリンタで使用可能なフォント名"

設定の一例を示します。

プリンタが EPSON LP-9000PS2 F2 の場合

```
Fixed= "GothicBBB-Medium-83pv-RKSJ-H"
Gothic= "GothicBBB-Medium-83pv-RKSJ-H"
"Interface system"= "GothicBBB-Medium-83pv-RKSJ-H"
"Interface user"= "GothicBBB-Medium-83pv-RKSJ-H"
Kmenu= "GothicBBB-Medium-83pv-RKSJ-H"
Mincho= "GothicBBB-Medium-83pv-RKSJ-H"
Screen= "GothicBBB-Medium-83pv-RKSJ-H"
```

その他の日本語環境での設定に関するトラブルシューティング

問題: <ORACLE_HOME>/guicommon6/tk60/admin/uiprint.txt 内で指定している PPD ファイルのパラメータ、DefaultPageSize、DefaultPageRegion、DefaultImageableArea、DefaultPaperDimension の値を letter に指定している場合、プリンタが正確に動作しないことがあります。

対処法: 値を A4 に指定してください。

問題: Reports を HTML または PostScript 形式のファイルに出力する場合、出力文字が記号になることがあります。

対処法: <ORACLE_HOME>/guicommon6/tk60/admin/uiprint.txt で指定した PPD ファイルから、対応するフォント名「Symbol」を削除します。

問題: <ORACLE_HOME>/guicommon6/tk60/admin/uiprint.txt に有効なプリンタのエントリが無い場合、Forms から Graphics を RUN_PRODUCT で正常に起動できない場合があります。

対処法: uiprint.txt に有効なプリンタのエントリを記述してください。uiprint.txt の設定についての詳細はインストレーション・ガイド「uiprint.txt ファイルの編集」の節を参照してください。

問題: Reports Server の起動時に「AFM ファイルをオープンできません:」というメッセージと共に、フォント名のリストが表示される場合があります。

対処法: これは PPD ファイルにリストされたフォントに対応する AFM ファイルがない場合に表示されます。対応する AFM ファイルを入手するか、PPD ファイルから対応するファイル名を削除してください。

第 15 章 Oracle Developer for HP-UX R6i Patch2 の適用

パッチの適用に関して

Oracle9i Application Server Enterprise Edition R1.0.2 で提供される Oracle Developer Server 機能（Forms Services および Reports Services）は Oracle Developer R6i Patch2 のコンポーネント・バージョンにて提供されています。Oracle Developer R6i でもこのパッチを適用することにより、Oracle9i Application Server Enterprise Edition R1.0.2 の Oracle Developer Server 機能とコンポーネント・バージョンの同期を取ることができます。

パッチを適用する場合は、インストールされているすべてのコンポーネントにパッチを適用する必要があります。たとえば、Forms のみにパッチを適用し使用することはサポート対象外となります。

Forms か Reports の one-off パッチを適用する場合は、Patch2 をインストールした後に、それらのパッチを再適用する必要があります。

CD の内容

CD のルートディレクトリには次のファイルがあります。

README.dev6i.r2

d2k6i_release2.tar

README.dev6i.r2 は英語版 README ファイルです。

d2k6i_release2.tar がパッチファイルです。

このパッチには、コンポーネントを以下のバージョンにアップグレードするためのモジュールが含まれています。

Forms	6.0.8.11.3
Reports	6.0.8.11.2
Doc	6.0.8.11.4
Graphics	6.0.8.10.0
ProcBuilder	6.0.8.11.0-449
ros	6.0.5.0.1
tk	6.0.8.10.1

jinit	1.1.7.31o
jdkav	1.1.7.31o
relnotes	6.0.8.11.2
ge	6.0.8.10.0

インストール方法

注: Oracle Applications ユーザーは Oracle Applications のドキュメントを参照して下さい。

Oracle Developer R6i Patch2 は前のバージョンのファイルを上書きします。従いまして Patch2 のみをアンインストールして以前のバージョンに戻すことはできません。以前のバージョンを使用するためには新規にインストールする必要があります。

1. 環境変数 ORACLE_HOME を設定します。
2. ファイル d2k6i_release2.tar を \$ORACLE_HOME にコピーします。
3. Untar を実行します。

```
cd $ORACLE_HOME
tar xvf d2k6i_release2.tar
```
4. Forms Server、Reports Server が動作している場合は停止します。

```
$ORACLE_HOME/forms60_server stop
$ORACLE_HOME/reports60_server stop
```
5. インストーラーが前のバージョンの Forms java ファイルへ書き込めるようにします。

```
chmod -R ug+w $ORACLE_HOME/forms60/java
```
6. インストーラーを実行します。

```
cd $ORACLE_HOME/orainst
./orainst
```
7. 'Select the Installer activity' ダイアログに対して、'Install, Upgrade or De-Install Software' を選択します。
8. 'Select the Installer option' ダイアログに対して、'Add/Upgrade Software' を選択します。
9. 'Enter the pathname of the \$ORACLE_LINK directory' ダイアログに対して、Oracle Developer R6i Patch2 のフルパスを入力します。d2k6i_release2.tar を \$ORACLE_HOME にて untar した場合、<ORACLE_HOME>/d2k6i_release2 になります。<ORACLE_HOME> は \$ORACLE_HOME の値で置き換えてください。

10. インストール済みのコンポーネントを確認し、既にインストールされているコンポーネントでリストされるものを全て選択し、インストールします。インストーラーについての詳細は製品添付の **Install Guide** でもご覧いただけます。

第 16 章 Oracle Reports Developer R6i Patch2 新機能

Oracle9i Application Server リリース 1.0.2 の Oracle Reports Services では、次の点が変更および強化されました。

Oracle Reports セキュリティ

Oracle Portal

このリリースでは、Oracle Reports Services 6i セキュリティとともに機能する Oracle Portal リリース 3.0 が導入されています。ただし、日本においては Oracle9i Application Server のこのリリースでは Oracle Reports Services 6i セキュリティ機能はベータ機能として提供されており、サポートされません。

拡張集約操作および分析関数

Oracle Reports Services では、拡張集約操作および分析関数がサポートされるようになりました。

集約操作は、単一行ではなく、行グループを基にして単一結果行を返します。集約関数は選択リスト、**ORDER BY** 句および **HAVING** 句で使用できます。通常は、**SELECT** 文中で **GROUP BY** 句とともに使用します。この場合、問合せ表またはビューの行は Oracle8i によってグループに分割されています。たとえば、次のようになります。

```
SELECT dname, sum(sal)
FROM dept, emp
WHERE dept.deptno =emp.deptno
GROUP BY dname
```

データベースは各行グループに集約関数を適用し、各グループに単一結果行を返します。したがって、この例では個々の部門別の給与合計が示されます。

拡張集約操作は Oracle8i リリース 8.1.5 で導入され、正規のグループの他に（追加行として）超集合グループを生成する **CUBE** および **ROLLUP** 拡張が追加されて機能を強化しました。**ROLLUP** は、最小単位の合計から総計まで、集約のレベルを増やしながら小計を算出します。**CUBE** は **ROLLUP** に似た拡張で、考えられる限りの組合せの小計を 1 つの文で計算できます。**CUBE** では、**cross-tabulation** レポートに必要な情報を 1 回の問合せで生成できます。ユーザーは、選択リストの **GROUPING** 関数を使用して、問合せにより返された実際のデータ行と **CUBE** および **ROLLUP** 拡張により追加された行を区別できます。**GROUPING** 関数は、実際の行であれば 0 を、そうでなければ 1 を返します。

Oracle8i R8.1.6 では、ビジネス・インテリジェンス・アプリケーションおよびデータ・ウェアハウス・アプリケーション用に SQL 関数の強力なファミリーが新しく導入されました。これらの関数は分析関数と呼ばれ、数多くのビジネス分析問合せのパフォーマンスを大幅に改善し、コーディングを容易にします。これらの新しい SQL 関数は、SQL 規格に新たに追加するために ANSI でも検討されています。オラクル社では、分析関数の 4 つのファミリーを作成しました。それぞれにいくつかの関数が含まれています。

- ランキング・ファミリー
- ウィンドウ集約ファミリー
- レポート集約ファミリー
- LAG および LEAD ファミリー

ランキング・ファミリー

このファミリーは、「各地域の販売員の上位 10 人と下位 10 人を表示する」、「各地域で売上の 25%を計上した販売員を表示する」などのビジネス上の問合せをサポートします。この関数は、結果を生成する前に出力全体を調べます。オラクル社では、RANK、DENSE_RANK、PERCENT_RANK、CUME_DIST および NTILE 関数を提供しています。

ウィンドウ集約ファミリー

このファミリーは、「13 週間の株価の平均推移を表示する」、「地域ごとの売上の累積を表示する」などの問合せを発行します。この新しい機能では、AVG、SUM、MIN、MAX、COUNT、VARIANCE および STDDEV を含むすべての SQL 集約関数について、推移および累積処理を提供します。

レポート集約ファミリー

最も一般的な計算方法の 1 つに、非集約値と集約値の比較があります。全体の中の割合および市場占有率の計算すべてに、この処理が必要です。レポート集約ファミリーはこの種の計算を簡略化します。同じ行に対して違う集約レベルで計算された値を求めることができます。また、結合操作を行うことなく、集約値を詳細な行まで比較できます。この新しいファミリーでは、AVG、SUM、MAX、COUNT、VARIANCE および STDDEV を含むすべての SQL 関数について、レポート集約処理を提供します。

LAG および LEAD ファミリー

変化と変動の調査は分析の中心です。これには必然的に表中の異なる行を比較することが含まれます。これは SQL でも可能ですが（通常は内部結合で行います）、効果的ではなく、式を作成するのが容易ではありませんでした。LAG および LEAD ファミリーを使用すると、

現在の行からのオフセットを指定するだけで表中の異なる行を比較する問合せが作成できます。

これらの関数と操作に関するアプリケーションの例を次に示します。所属する組織の人事部長から、会社の従業員に関する次の情報を要求されたとします。

「報酬方針と職務が平等で、かつ会社の方向性に沿っているかを確かめたい。これを判断するには、人事データベースから次のことを調べる必要がある。」

1. 従業員数の内訳および社内の各職務の平均給与。最初に会社全体について、次に部門別に調べたい。
2. 各従業員について部門ごとに、報酬の合計がいくらか、この報酬が会社全体およびその部門でどれくらいのランクにあるか（およびその割合）、会社の平均報酬がこれをどれくらい上回っているまたは下回っているかを調べたい。

「同じレポート上で、従業員の雇用日、会社での先任順位（つまり、雇用された順番）、その次に雇用された人、その後の勤続年数を調べたい。」

Oracle8i の新しい分析関数を使用すれば、人事部長が要求するすべての情報をたった 2 つの SQL 文で調べられます。PL/SQL でデータを処理する必要はありません。最初の要求は、次のように表せます。

```
SELECT GROUPING(dname) dept_grouping_code,
       DECODE(GROUPING(dname), 1, 'All Departments', initcap(dname)) AS dname,
       GROUPING(job) job_grouping_code,
       DECODE(GROUPING(job), 1, 'All Jobs', job) AS job, COUNT(*) "Total Empl",
       AVG(sal+nvl(comm,0)) "Average Comp"
FROM emp, dept
WHERE dept.deptno = emp.deptno
GROUP BY CUBE (dname, job)
```

2 番目の要求は、SQL では次のように表せます。

```
SELECT emp.deptno,
       dept.dname,
       avg(sal+nvl(comm,9)) over (partition by dept.deptno) avg_dept_sal,
       ename,
       job,
       sal,
       nvl(comm,0),
       (sal+nvl(comm,0)) Compensation,
       hiredate
RANK () OVER (PARTITION BY emp.deptno ORDER BY (sal+nvl(comm,0)) DESC) as rk,
RANK () OVER (ORDER BY (sal+nvl(comm,0)) DESC) "Rank in Company",
RANK () OVER (ORDER BY hiredate) "rank in employ",
((LEAD(hiredate, 1) OVER (ORDER BY hiredate))-hiredate) "Days over emp",
(LEAD(ename,1) OVER (ORDER BY hiredate)) next_emp
```

```
FROM emp, dept
WHERE dept.deptno = emp.deptno
ORDER BY rk
```

普通は人事部長には会議用資料相当の出力を提出するため、SQL*Plus のかわりに Oracle Reports Services を使用してこのレポートを作成します。

ここで問題となるのは、この特別な構文を使用した問合せを、どのようにして企業レポートに取り入れるかです。答えは簡単です。他の標準的な SQL 文を使用する場合と同様に行います。

Oracle Reports Services では SQL を直接データベースに渡すため、開発者はこれらの関数と拡張集約操作をすべてのバージョンの Oracle Reports Services の（スタンドアロンまたはリンクされていない）個別問合せで利用できます。また、Oracle Reports Services 6i Patch2 はこうした SQL 構文の拡張を認識できるように強化されているため、これらの関数を使用した問合せは、データ・モデルで変更された他の問合せまたはフィールドのブレイク順序にリンクできます。Oracle Reports Services では、見えないところでこれらの機能によって実際に SQL 文が書き直されるため、Oracle Reports Services 6i Patch2 が必要となります。

レポートは、ウィザードを使用して、またはグループ上レポートに定義されたブレイク・グループを使用して手動で問合せを作成することによって作成できます。人事部長は2つのサマリーを要求しているので、問合せをリンクする必要はありません。Oracle Reports Services のマルチ・セクションおよびパースト機能を使用して、最初のセクションに最初の問合せ結果を、別のセクションに次の問合せ結果を表示できます。もちろん、一度レポートを実行すれば、それぞれのセクションを様々なフォーマット（PostScript、HTML、RTF 等）で様々な宛先（プリンタ、電子メール等）へ実行できます。

もう一度レポート・ウィザードを実行し、2つ目の分析用のレイアウトを作成します。チャート・ウィザードを起動して、いくつかのデータを視覚的に表示することもできます。

このように、新しい拡張集約操作と分析関数は非常に強力で、これを使用すると Oracle Reports Services でのデータ分析を簡単に強化できます。